前提条件

- ・「大規模改修」及び「建替」の2つパターンについて、「従来型手法」と「PFI手法」の比較
- ・事業方式については、「BTO (Build Transfer Operate) 方式 (PFI法) 」により計算 (RO方式も同様)
- ・事業期間は、「施設整備期間」を「1年」及び「2年」の2パターン、「維持管理運営期間」を「15年」とし計算
- ・収入は、イコールフィッティングの観点から、「従来型手法」と「PFI手法」いずれもゼロ円で計算(補助金・交付金・起債)
- ・その他、利率・SPCや資金調達費用・税率等については、過去のPFI案件平均 等を活用
- ・「維持管理運営期間」を「15年」とし、大規模改修は生じない想定で計算

以上の前提条件を踏まえ、国土交通省「VFM簡易計算ソフト」により算出

1 大規模改修

条件
候補となるPPP/PFI手法
①整備等(運営等を除く。)を費用
②運営等費用
③調査等費用
④資金調達費用
⑤利用料金収入
⑥税金
⑦税引後損益
⑧補助金・交付金等
合計 (上の値の合計)
合計 (答え合わせ)
合計 (現在価値)
財政支出削減率

従来型手法	PFI手法	
整備期間1年の場合		
	BT0	
5,238,520	4,305,586	
3,865,440	3,744,855	
0	60,000	
0	974,679	
-2,105,610	-2,105,610	
0	17,655	
0	49,846	
0	0	
6,998,350	7,047,011	
6,998,350	7,047,010	
6,542,953	5,233,777	
	20.0%	

従来型手法	PFI手法	
整備期間2年の場合		
	BT0	
5,238,520	4,398,342	
3,865,440	3,744,855	
0	60,000	
0	994,462	
-2,105,610	-2,105,610	
0	17,655	
0	49,846	
0	0	
6,998,350	7,159,550	
6,998,350	7,159,548	
6,392,041	5,114,226	
	20.0%	

2 建替

条件
候補となるPPP/PFI手法
①整備等(運営等を除く。)を費用
②運営等費用
③調査等費用
④資金調達費用
⑤利用料金収入
⑥税金
⑦税引後損益
⑧補助金・交付金等
合計 (上の値の合計)
合計 (答え合わせ)
合計 (現在価値)
財政支出削減率

従来型手法	PFI手法	
整備期間1年の場合		
	BT0	
8,369,820	6,873,252	
3,865,440	3,744,855	
0	60,000	
0	1,553,466	
-2,105,610	-2,105,610	
0	40,890	
0	115,417	
0	0	
10,129,650	10,282,270	
10,129,650	10,282,265	
9,674,253	7,631,835	
	21.1%	

従来型手法	PFI手法	
整備期間2年の場合		
	BT0	
8,369,820	7,014,794	
3,865,440	3,744,855	
0	60,000	
0	1,583,650	
-2,105,610	-2,105,610	
0	40,890	
0	115,417	
0	0	
10,129,650	10,453,996	
10,129,650	10,453,990	
9,463,124	7,462,232	
	21.1%	

考察

- ・当該計算については、部分改修ではなく「躯体」及び「設備」を含めた整備費用で計算したため、VFMが高くなった。
 - → 改修レベルに合わせて、一括で整備できるものは「PFI事業」に含むことが望ましい(保全計画内の整備を含む)
- ・当該計算には、「資金調達に係る金利計算」が含まれていないため、詳細な導入可能性調査での検証が必要である。
 - → 金利等により、公的資金(DBO)の有意性が高くなることが想定される。
 - → この場合、「PFI法に準じたDBO」とすることで、双方のメリットを享受できる。
- ・RO方式の事例としては、埼玉県所沢市「所沢市民文化センター改修事業」が類似していると考えられる。(VFMは4.0%)
- ・利用料金収入や事業収入が比較的高いため、「Operate」を含まなければ、VFMは生じにくい。(指定管理等による維持管理を事業に含めることを想定)